

(一)

貯蓄計画

包括的ナル貯蓄一節約計画ハ、年總生産物価格ヨリ国民ノ现实的生計費總額ヲ控除セル金額ヲラシメザルベカラズ

新貯蓄ノ対象タル要因ハ次ノ如シ

左ニ示スハ吸收順位ニシテaヨリdマデハ經常的ナルモ軍需補充ノ状況ニ依ジエ以下ノ吸收ヲ準備ス

- a 設備費用ニヨル資金
 - b 設備費用が原材料化セル場合ハ買上価格ト利用価格ノ差
 - c 存在購買力中現実化シ得ルト推定セラル總額
 - d 国民所得中總生計費ヲ差引ケル總額
 - e 減価償却相当分
 - f 總生計費中第二次生計費
 - g 計画年度ニ於ケル流動財補充予定額
- 2 資金計画遂行ノ條件トシテハ貯蓄ニ対シテハ次ノ実行ヲル

イ 国民所得以外ノ購買力ノ全部的吸収

ロ 超過利潤ノ全部的吸収

ハ 退職貨幣ノ可及的吸収

ニ 都市ト農村生産部門間ニ一方ノ貯蓄増ハ他方ノ貯蓄減トシテ現ハル、其ニ着眼目シ、貯蓄ノ全量ヲ集中化シ、配分ヲ資金計画中心当局ノ意志ニ委ネラレ得ルコト

ホ 貯蓄率ノ上昇ハ専ラ生活財ノ価格騰貴防止ノ見地ヨリ為サル、コト

ヘ 投資ニ対シテ常ニ貯蓄ガ先行シ得ル如ク時期ノ計画ガ立テラル、コト

3 貯蓄一節約ヲ種類別ニ表示セバ次ノ如シ

- イ 租税 献納金 (個人 法人別)
- ロ 金融機関預貯金 (" ")
- ハ 直接投資 (" ")
- ニ 手持退職金 (" ")

イ 租 税 額

資金計画が租税額ノ決定ニ与ヘサル基準ハ、相対的ノモノナリト
虽モ範圍ハ國民所得ヨリ國民生活資金、産業補充資金ヲ控除セル
範圍ニ屬サンムルコトハ当然ナリ、当該年度ニ於ケル資本ノ集中
企業合同、及び所得分布ノ変動ヲ考慮シ、右ノワク内ニテ直接税
ノ總額ハ決定セラルベシ

資金統制ノ高度段階ニ於テハ間接税ハ廃絶セラルベキ運命ニアレ
ドモ、間接税ハ貨幣的國民所得ノ配分トシテテハナク、追加トシ
テ現ハル、コトヨリミテ、資金計画ノ見地ヨリハソノ抑制が願ハ
ル、モ当然ナリト云フベシ

直接税モ賃金給与ノ引上ノ動因タルベキモノナレバ租税計画ハ分
配統制トノ關係ヲ示スコト

ロ 金融諸機関貯蓄計画

資金計画遂行機関トシテノ金融機関ノ整備配置ヲ前提トナセバ、

直接投資ハ極力圧縮セラレ資金計画遂行機関トシテノ金融機関ニ
集中セラルヘキモノナルベシ
第六部組織計画ニ示セル如キ、金融機関別貯蓄計画ノ実行ヲ示ス
ベキコト

(二) 投資計画

資金計画ハ投資ヲ貯蓄ニ一徹センムルニアリ、即チ投資計画ハ貯蓄計
画ノワク内ニ於テ処理セラルベキ要請ヲ有スルモノナリ、計画ガ所請
機動性ヲ示シ得ル前提條件ナリ、

イ 投資計画ノ対象トナルモノハ左ノ諸要因トス、

イ 公債

公債上金

ロ 株式

社債

貸出金

自己投資

退藏金投資

ハ 国外投資

又 資金計画ノ投資ニ対スル要請次ノ如シ

資金計画ニ於ケル投資計画ハ概ヒテ当然ニ財（物及ヒ利益）ノ価格

水準維持ニ於ケル存在量ト対応セザルハカラス

投資計画ハ集中的ニ一意志ニヨリ決定セラル、コト

(三) 金融（信用）個別配分計画

金融個別配分計画ノ趣旨トナストコロハ、金融ニヨリ無條件自由購買

カガ造出セラル、コトヲ廃絶シ、財政産業ノ各單位別ニ用途商品便益

別ノ口座ヲ設定スルニアリ

ノ 政府ノ貨幣收支計画

政府資金ノ收支ニツキ四半期計画ヲ設定シ經常支出ニツイテハ支出

用途ヲ定メ流用ヲ禁スルコト、コレガ遂行組織ハ第六部ニ於テ説明

スベキコト

又 各種財団法人ノ收支計画

特定金融機関ヲ用途別口座ヲ持ツベキコト

3. 企業運載資金計画

ノ 事業資金総量ニ就キテハ第一部ニ於テ生産計画ノ開聯ニ於テ概定

セラレタリトス

本部門ニテハ主トシテ運載資金計画ヲ各産業部門別各企業集団別ニ

樹立スルヲ要ス

○ 運載資金ノ総額ハ第一部ニ於テ算定セラレタルモノナルモ、任意ノ

期間ニ於ケル所要量ヲ算定スルコトハ資本ノ回転ノ肉聯ニ於テ決

定セラルベキモノナリ、本計画樹立ニ当リテハ資本ノ回転期間測定

ヲ出發点トナスヲ要ス

特定金融機関ハ企業ノ借入金並ニ自己資金ノ用途ヲ監視シ、ストツ

クノ過度ノ買ダメ 法定価額外ノ取引 運搬資金ノ固定資本化 其
 他浪費ヲ防止スルコト 資金計畫遂行者トシテノ金融機関ハ無條件
 購買力ノ金融ヲ行フモノニ非スシテ 特定財ノ特定量ニ対スル法定
 価格ニヨル支拂ヲ行ハシムルニアリ
 以上ノ目的ノタメニハ商業手形ハ廃絶スルコト 手形割引ハ企業間
 ノ自由取引ノ結果ヲ受身的ニ金融スルモノニシテ計畫金融トハ正ニ
 背馳スルモノナレバナリ 又原則トシテ小切手ニヨル預金通貨ノ流
 通ヲ禁ジ 当座預金ハ現金收支ノ必要限度(貸金給与 小額取引)
 ニ止ムルコト

工業金融

一、計畫ハ次ノ条件ヨリ成ル

人 予定計画 原材料購入、労賃

計畫的貸付ノ平均期間

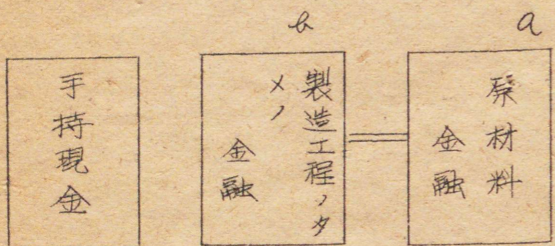
又 非予定的计划……計畫ノ編成替ヲ行ヒ得ザル諸事情ニヨリ緊急ニ

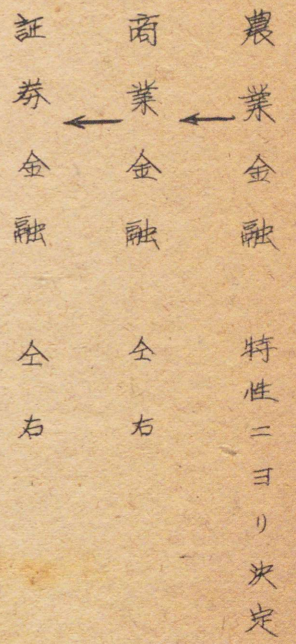
追加原材料 下請 労力ノ追加ニ対スル自由主
 義容認部分
 ○ 生産行程ノ予想外延長ニヨル追加資金ノ要求

二、各企業ニ対スル信用ノ限度決定規準

一、四半期毎ニ各会社ハ資金繰予定表ヲ作成スルコト

種類別設定





通貨計限

通貨計限ニヨリ対象トセラル、ハ、現金並ニ小切手ナリ。
 信用統制ノ以上ノ如キ遂行ヲ前提トセバ現金ノ支出ト回收ハ主ニ家
 計ヲ中心トシテノ動キニヨリ決定セラルベシ。企業間並ニ企業ト
 家間ノ現金収支ハ一定限界以下ノ小額ニ限ラル、トナスコトハ前記
 セリ。

翌左ノニ表、如キ測定ヲ基準トス。

國民現金收入(月別、四半期、地域別)

	國家ヨリ個人ヘノ支拂	企業ヨリ個人ヘノ支拂	個人ヨリ個人ヘノ支拂	個人積金引込シ類
労金(着手当ヲ含ム) (支拂期同別)				
俸給及手(着手当ヲ含ム) (支拂期同別)				
利息(各種)配当				
子貸料(各種)金				
補助料(年)金				
除札				
職				
送内				
立小徑者ノ收入				

國民現金支出 (四半期、地域別)

	個人ヨリ公機関へ	個人ヨリ企業、其他へ	個人ヨリ個人へ	貨幣貯蓄
租税 (其他納付金)				
株式				
債券				
住宅、家具、衣服、食料、娯楽、交通、通信、教育、医療、その他				
現金				

通貨計画ノ目標

- 一 貨金 給与ノ法定額維持
- 二 國民生活計費ノ標準決定
- 三 生活用物資 用益ノ法定額維持
- 四 右ニ條件ヲ充足スルニ必要程度ノ通貨量ノ決定

第五部

補遺

準備財部内ニ対シ計取外ノ追加需要ヲ生シタル場合ト雖モ、配分計取ニ於
 テ現物資本並ニ貨幣資本ノ予備ヲ有スルトキハ追加信用ヲ引起サズ、又、
 生産計取ノ変更ヲモ呼ヒ起スコトナキハ明ラカナリ。
 此処ニ討求ヲ要スルハ追加信用ニヨリ資本ノ回振機関、資本配分、生産力
 配分ニ変更ヲ引起シタル場合ノ財財係ノ変化、及び各種財ノ価格騰貴ノ状
 態ナリ。
 前提トシテ生産財、労働力（拡充表式ハ労働力ノ予備ヲ前提ス）ノ全体量
 ニ変化ナシトス。政府支出（赤字公債ニヨル）ニヨル準備財追加需要ヲ出
 発点トシ追求セバ凡ソ可能ナル場合ハ次ノ如キモノナルベシ。

第一式 前撰下又ル計重組成

第一表

	K	W	P	O	E	C		S	
						$W\frac{2}{8} + P\frac{3}{8} = \frac{3}{2}$	$W\frac{1}{8} + P\frac{3}{8} = \frac{1}{2}$		
g	20	10	10	40	20	275 + 625 = 15	125 + 375 = 5		
K	60	30	30	120	60	2625 + 1875 = 45	375 + 1425 = 15		
L	40	40	40	120	80	35 + 25 = 60	5 + 15 = 20		
計	120	80	80	280	160	70 + 50 = 120	10 + 30 = 40		

g = 單需財生産部門
 K = 生産財生産部門
 Ke = 流動財
 L = 生活財生産部門
 計重組成ノ諸條件

K = 生産財(價格)
 W = 労働者()
 P = 利 潤()
 O = CK + E = 總價格
 E = W + P = 所費
 C = 消費額

S = 貯蓄
 P = 超過利潤
 ΔI = 追加信用投資
 ΔR = 追加收入

$Ke = 5 \times 280 = 1400$

技術構成 K:W—量の表示、価格組成 K:E—價格表示

利潤率 = $\frac{P}{E}$

貯蓄率 = $\frac{S}{E}$

g K:W = 2:1 g K:E = 1:1 g $\frac{P}{E} = \frac{1}{2}$ g $\frac{S}{E} = \frac{3}{8}$
 K K:W = 2:1 K K:E = 1:1 K " = $\frac{1}{2}$ K $\frac{S}{E} = \frac{1}{8}$
 L K:W = 1:1 L K:E = 1:2 L " = $\frac{1}{2}$ L $\frac{S}{E} = \frac{1}{4}$

固定率 K_g:K_e

g K_g:K_e = 5:1

K " " = 5:1

L " " = 2.5:1

第二式

計畫組成

第二表

K#	KC		W	P	O	補充及E準備	C 1/2 E	S 1/2 E		準備		当期費用
	A	B						技術	商品			
g	30	3	15	15	60		15	15	39			62.93
g'	1.95	0.1	0.49	4.9	2.93		0.49	0.49				
K#	70	7	17.5	17.5	10.5	10.5-4.3=6.2	17.5	17.5				
K#	7.55	0.4	1.12	1.12	6.79	6.79-2.6=4.19	1.12	1.12	9.1		10.29	45.6
Kc	300	30	7.5	7.5	4.50	4.50-4.17=0.33	7.5	7.5	39		26.18	444.3
Kc	19.5	1.9	0.49	4.9	20.48	20.48-27.3=-6.82	4.9	4.9				
L	60	3	60	60	180	180-167.5=12.5	60	60	39		18.2	173.5
L'	3.9	0.2	3.9	3.9	11.7	11.7-6=5.7	3.9	3.9				
Total	460	43	167.5	167.5	795		167.5	167.5	55.9		54.67	
Total	27.3	2.6	6	6	41.9		6	6				

固定設備率 $\frac{K\#}{K\# + Kc} = \frac{2}{3}$ 利率率 $\frac{P}{W} = \frac{1}{1}$

技術組成 $\frac{W}{K\# + Kc} = \frac{1}{6}$ 技術率 $\frac{P}{W} = \frac{1}{2}$

価格組成 $\frac{W + P}{C + K} = 1$

人 軍需生産部門へ追加政府支出が質的技術組成ヲ変化センメザル場合
 短期促進の場合
 イ 労働者ノ数ハ増大セス。労働時間延長ニ対シ賃金増
 ロ 利増増
 ハ 原材料等流動材ノ納期促進ノタメ流動財価格増
 ニ 納期ヲ促進セラレタル流動財部門ノ賃金反比利増増
 ホ 前記而部門ノ所屬増中消費支出相当分ダケ消費財ノ価格増
 ヘ 消費財ノ価格増分ハ消費財部分ノ利増増トナル
 ト 賃金増ハ追加投資対象分以外ニ波及ナシ
 千 生産財価格増及ク微弱

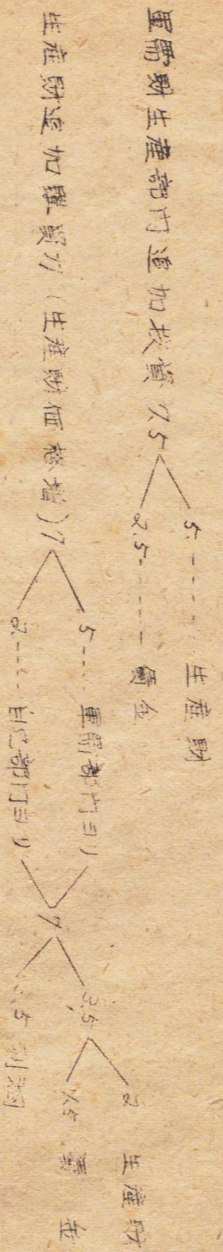
リ 軍需財価格増減及ナシ

政府支出(赤字)ニヨル軍需財購買ガ全部門ノ質的
技術組成ヲ変化セズ、価格組成ノミヲ変化セシメタル場合

第三表

	ΔR	ΔI	K	W	P+P'	O	E _{W+P}	C _{3/4E}	S _{1/2E}	P' 貯蓄率
計画組成	g		20	10	10	40	20	15	5	—
	k		60	30	30	120	60	45	15	—
第一期総増	L		40	40	40	120	80	60	20	—
	g	75	5	25	25	260	160	120	40	—
k	75	35	2	45	35	10	5	375	125	2
L	245	—	—	—	75	245	75	—	75	25
		110	7	40	13	245	175	75	10	

政府赤字支出 10 ----- 軍需財価格増分 2.5
利息 2.5
賃金 2.5



所得増 = 125

生産財追加購買力 75 = 全体ノ消費増

貯蓄増 (賃金貯蓄 + 利潤貯蓄 + 超過利潤) = 政府赤字支出

価格増 = 追加購買力総量

政府支出(赤字)ニヨル軍需財需要ガ生活財生産部門ノ
技術組成ニ変化ヲ生ゼシメタル場合(実物資本ノ円換)

第四表

計画組成	第一期		第二期		第三期	
	g	k	g	k	g	k
CK	20	40	22.5	60	25	60
	10	30	11.25	30	11.5	30
W	40	40	38.75	38.75	38.5	38.5
	10	30	11.25	30	11.5	30
P	40	40	38.75	38.75	38.5	38.5
	10	30	11.25	30	11.5	30
O	40	120	45	120	48	120
	10	120	11.5	115	12.2	112

又 追加支出——追加投資ガ生活財部門ノ技術組成ニ変化ヲ与ヘル場合
(軍需事業家ガ生活財部門ヨリ生産財並ニ労働者ヲ二倍ノ価格ニラシ
抜キタル場合等)

- イ 以後毎期同額ノ追加投資(同価格取引)ガ行ハル、限
リハ技術組成ニ一回的変化ヲ引起スノミナリ(第四表)
- ロ 追加投資ノ場合生産財及ヒ労働力ニ対スルニ倍支出ハ全体的ニ価
格増ヲ波及センムル傾向アリ
- ハ 追加支出ニヨリ軍需財追加生産部門ガヲ形成セリトセバ、同部門
ノ救期回轉ヲ通シ同部門内ニ同額ノ貯蓄ヲ生ズ(第五表)
期向算出ハ次ノ如シ

$$g \text{ 部門ヨリノ追加支出回収期間} = \frac{\text{追加支出}}{\text{追加支出} \times \text{所得率} \times \text{貯蓄率}} \times \text{資本回収期間}$$

ニ 追加支出ノ全生産部門へノ影響ヲ見ルニ資本ノ一回転期ニ於テ如何ナル貯蓄率ヲ設定スルトモ必然的ニ同一期ニ追加支出相当分ノ貯蓄ヲ形成ス——但シ超過利潤ハ必ず吸収シ損失分ハ必ず補償スルコトヲ前提トス (第九表)

ホ 貯蓄率如何ニヨリ影響ヲ受クルハ生活財価格ノ騰貴程度及賃金へノ影響ヲ独立的ニ考慮セバ同財生産部門ノ利潤ナリ

ハ 追加支出ニヨル価格騰貴影響ハ生産財、軍需財、労金ニハ直接的デアリ、生活財ニハ間接的 (貯蓄率ヲ通ジ) ナリ

ト 生産財ノ労金ニ倍ト云フ新値設定ガ継続スル限り、法定価維持ノ反作用ヲ受ケテモ尚部分ヨリ全体へ底力ヲ以テ波及スル必然性アリ、及ニ第二期ニハ全生産量ノ $\frac{1}{4}$ ニ対シ第三期ニハ $\frac{1}{2}$ ニ対シ第四期ニハ $\frac{3}{4}$ ニ対シ、第五期ニハ全量ニ対シ新値ガ影響ヲ有セリトス

チ 生産財ニ対スル追加購買力ハ四部門ヨリ同時ニ起リ、賃金騰貴ト

リ 共ニ總価格ヲ同一割合ニ騰貴セシムベシ (第六表)

リ 同僚ノコトハ計画軍需部門ニモ波及シ、調剤価格ノ改訂ヲ迫ルコト第七表ニ見ラルベシ

又 消費財価格ハ前二部門ノ追加消費並ニ自己部門ノ追加消費ニヨル追加購買力ニヨリテノミ価格騰貴影響ヲ受クルモノトス (第八表)

ル 及ニ計画組成ニ於ケル貯蓄率ガ追加所得分ニソキ維持セラレタリトセバ、技術組成変化ニヨル生産量減少ノタメ生活財ハ單位当リ他ノ生産財、賃金ノ騰貴率以上ノ騰貴率ヲ示ス (第九表) 従ヒ

オ テ生活財生産部門ニ超過利潤ヲ形成ス

他ノ二財ノ騰貴ニ及バズ、ソノ価格差ハ生活財部門ノ苦惱ヲ示シ

来ル、コノ場合、貯蓄總額ハ政府追加支出ニ補助金ヲ加ヘタル額

ニ相当スルダケハ必ず形成セラル、ナリ (第十表) (第十一表) (第十二表)

貯蓄率ノ場合 (第十二表) 貯蓄率〇ノ場合 (第十一表)

貯蓄率ノ場合 (第十一表)

畢需財追加生産部門 (g')

第五表

	ΔR	ΔO	ΔK	OW	ΔW		ΔP		ΔC	ΔS
					$\frac{\Delta C}{8}$	$\frac{\Delta S}{8}$	$\frac{\Delta C}{8}$	$\frac{\Delta S}{8}$		
1	10	10	5	25	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	1.25
2	10	10	5	25	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	2(1.25)
3	10	10	5	25	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	3(1.25)
4	10	10	5	25	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	4(1.25)
5	10	10	5	25	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	5(1.25)
6	10	10	5	25	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	6(1.25)
7	10	10	5	25	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	7(1.25)
8										

$\Delta O = \Delta K + \Delta P + \Delta S$

生産財生産部門 (R)

第六表

g' g. P. L.	追加購買力	總價格	生産財投資	資金	追加實金消費		追加利潤消費		追加消費	追加貯蓄
					$\frac{7}{8}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{5}{8}$	$\frac{3}{8}$		
0		120	10	30			7.5			
1	5	125	10	30			7.5		7.5	
2	5	150	15	37.5	6.6	4.9	4.8	2.9	11.4	3.6
3	5	180	15	45	1.3	2	1.5	5.5	22.5	7.5
4	5	210	15	52.5	1.95	3	2.25	8.25	33.75	11.25
5	5	240	15	60	2.62	3.8	3.0	11.2	45	15

帳目

軍需財計課部門 (9)

第七表

追加貯蓄	總生產額	資本財	資金	追加資金		追加利息		追加費	追加貯蓄	追加本	又追加公積
				消費	貯蓄	消費	貯蓄				
0	40	20	10								
1	125	5	215	2.5		2.5					
2	125	1.5	36	1.9	0.6	1.85	0.5	3.75	125	7.5	10
3	125	2.5	8	5		5		7.5	2.5	15	20
4	125	3.75	12	7.5	0.6	7.5	1.9	11.25	3.75	22.5	30
5	125	5	15.2	10	0.9	10	2.85	15	5	30	40
				1.0	1.3	6.3	3.7				

消費財生產部門 (L)

第八表

追加購買力	總價格	資本財	資金	追加資金		追加利息		追加消費	追加貯蓄	總過剩
				消費	貯蓄	消費	貯蓄			
0	120	40	40							
1	375	212	2.5	1.75		2.12		262	125	
2	375	395	5	5.63	1.37	1.31	0.81	11.25	138.9	
3	375	75	15	13.13	4.39	5.63	2.75	26.25	127.4	
4	375	11.4	25	13.13	4.39	3.75		41.25	237.4	
5	375	11.4	35	20.63	1.87	4.75		56.25	287.4	

KM

KX

栖格增加分ノ分配 (1) 貯蓄額 = $W \frac{1}{2} + P \frac{3}{8} + 超過利潤$

第九表

期 間	1	2	3	4	5	6	7
	生産物栖格	生産財	賃金 W	利潤 P	所得 E (2+4)	消費 C $\frac{C}{W+P}$	貯蓄 S
1	10 7.5	5 2.5	2.5 —	2.5 7.5	5 7.5	3.75 —	1.25 7.5
計	23.87	7.5	4.25	12.12	16.37	6.39	1.25
2	20 30 30.14	10 1.5 5	5 7.5 7.5	5 7.5 12.64	10 1.5 25.14	7.5 11.4 11.24	2.5 3.6 13.9
計	80.14	30	20	30.14	50.14	30.14	20
3	30 60 59.99	1.5 30 1.5	7.5 1.5 17.5	7.5 4.5 24.49	1.5 30 44.99	11.25 22.5 26.24	3.75 .75 16.75
計	149.99	60	40	49.99	89.99	59.99	30
4	40 90 89.99	20 4.5 2.5	10 22.5 27.5	10 22.5 37.49	20 4.5 64.99	1.5 33.15 41.24	5 11.25 23.75
計	219.99	90	60	69.99	129.99	89.99	40
5	50 120 119.99	2.5 60 3.5	12.5 30 39.5	12.5 30 42.49	2.5 60 84.99	16.75 4.5 56.24	6.25 1.5 28.75
計	289.99	120	80	89.99	169.99	119.99	50

栖格增加分ノ分配 (2)

貯蓄率 $\frac{S}{E} = \frac{1}{2}$

第十表

期 間	△A	△K	△W	△P	△E	△C	△S
1	10 7.5 8	5 0 2.5	2.5 — 1.75	2.5 7.5 3.75	5 7.5 5.5	3.75 3.75 1.75	2.5 3.75 3.75
計	25.5	7.5	4.25	13.75	18	8	10
2	20 30 20	10 1.5 5	5 7.5 7.5	5 7.5 7.5	10 1.5 1.5	7.5 7.5 7.5	5 7.5 7.5
計	70	30	20	20	40	20	20
3	30 60 40	1.5 30 1.5	7.5 1.5 17.5	7.5 1.5 12.64	1.5 30 2.5	7.5 1.5 17.5	7.5 1.5 7.5
計	130	60	40	30	70	40	30
4	40 90 60	20 4.5 2.5	10 22.5 27.5	10 22.5 37.49	20 4.5 64.99	1.5 33.15 41.24	5 11.25 23.75
計	190	90	60	40	100	60	40
5	50 120 80	2.5 60 3.5	12.5 30 39.5	12.5 30 42.49	2.5 60 84.99	16.75 4.5 56.24	6.25 1.5 28.75
計	250	120	80	50	130	80	50

KY

K5

価格増加分ノ分配 (3)

貯蓄率 = 0

第十一表

	ΔV	ΔK	ΔW	ΔP	ΔE	ΔC	ΔS	超過利潤
1	g 10 K 7.5 L 16	5 — 2.5	2.5 — 17.5	2.5 7.5 11.75	5 7.5 13.5	5 7.5 3.5		10
計	34.5	7.5	42.5	21.75	26	16.0		
2	g 20 K 30 L 40	10 1.5 5	5 7.5 12.5	5 7.5 27.5	10 1.5 3.5	10 1.5 1.5		20
計	90	30	20	40	60	20		
3	g 30 K 60 L 80	15 30 15	1.5 1.5 17.5	7.5 15 47.5	1.5 30 6.5	1.5 30 3.5		30
計	170	60	40	70	110	80		
4	g 40 K 90 L 120	20 4.5 25	10 22.5 27.5	10 22.5 67.5	20 4.5 9.5	20 4.5 5.5		40
計	250	90	60	110	160	120		
5	g 50 K 120 L 160	25 60 35	12.5 30 37.5	12.5 30 87.5	25 60 12.5	25 60 7.5		50
計	330	120	80	130	210	160		

超過利潤ハ全部吸収

価格増加分ノ分配 (4)

貯蓄率 = 1

第十=表

	ΔO	ΔK	ΔW	ΔP	ΔE	ΔC	ΔS	補償
1	g 10 K 7.5 L —	5 — 2.5	2.5 — 17.5	2.5 7.5 —	5 7.5 —		5 7.5 17.5	3.75
計	20	10	5	5	10		13.25	
2	g 20 K 30 L —	10 1.5 5	5 7.5 12.5	5 7.5 —	10 1.5 —		10 1.5 7.5	12.5
計	30	15	7.5	7.5	15		32.5	
3	g 30 K 60 L —	15 30 15	1.5 1.5 17.5	7.5 15 —	1.5 30 —		1.5 30 17.5	
計	40	20	10	10	20		62.5	
4	g 40 K 90 L —	20 4.5 25	10 22.5 27.5	10 22.5 —	20 4.5 —		20 4.5 27.5	52.5
計	90	30	20	20	40		92.5	
5	g 50 K 120 L —	25 60 35	12.5 30 37.5	12.5 30 —	25 60 —		25 60 37.5	72.5
計	120	40	12.5	12.5	50		122.5	

K2

3. 追加支出——追加投資が生産財部門ノ技術組成ニ変化ヲ与ヘル場合
計重組成第一式ニヨリ考究セン

- イ. 生活財生産部門ノ技術組成ニ衝擊ヲ与ヘタル場合ニハソノ衝擊ハ一回的ニシテ変動々因トナラザルコトハ又ニ於テ示セルトコロナリ。然ルニ生産財部門ヨリ生産財(固定財流動財)ヲ抜キトルトキハ此処ニ変動々因ガ与ヘラレ。他ノ諸條件ヲ同一トセバ生産財部門ハ累進的ニ着化スル必然性アリ(第十五表)。遂ニハ軍需擴張計重サハ破壊スルニ至ル。
- ロ. 価格関係ニ及ボス影響中貯蓄率ト消費財価格ノ関係並ニ政府追加支出中固定財移転ニ支拂ハレタル以外ハ必ず同一期中ニ貯蓄ヲ形成スルコトハ又ノ場合ト同様ナリ。
- ハ. 設備ノ移転ニ支拂ハレタル額ハ絶対ニ当期國民所得中ノ貯蓄ヨリハ還流セズ。必ず一般超過利潤同額ニ全額吸収ヲ行ハザレバ「バランス」ハ破壊セラルベシ(第十六表)。
- ニ. 価格関係ヲ見ルニ全般的ニ価格上昇セル場合ハ生産財ノ生産減少

分ダケ単位価格ハ騰貴シ一部生産財生産者ノ超過利潤ヲ形成スベシ(第十六表)

政府支出(赤字)ニヨル軍需財需要ガ生産財生産部門ノ技術組成ニ変化ヲ生ズル場合(実物資本ノ劇激変化) 第十五表

計重 原価	K ₁		M	P	θ	
	g	k				
第一期	110	290	11	29	44	部門別ノタメK部門ヨリFK10. CK2 W1ヲ抜キトルリトス
	100	100	40	40	120	
第二期	110	290	11	29	44	及ヒ上ハ第一期ノ組成ヲ継続スルモノトセバ累進的ニK部分ハ細着化ス
	100	100	40	40	120	
第三期	110	290	11	29	44	
	100	100	40	40	120	

政府支出(赤字)ニヨル軍需財需要が生産財生産部門ノ技術組成ニ
変化ヲ生ゼル場合(価格構造ノ変化)

計	計		計		計		計		計		計	
	OR	FK	CK	W	P	O	ΔE	ΔS = 1/4 E	ΔC	計	計	計
計	100	300	20	10	10	46						
1	28	20	4	2	2	4	4	1	3			
2	4	-10			4	4	4	4				
計			4	2	9	15	15	8	3			
計	24	56	40	12	12	48	24	6	18			
計	120		40	40	40	120	80	20	60			

計重組成第二式(第二表)ニヨリ軍需追加投資が固定財ノ計重配置ヲ
更シ行ク場合ヲ考究セン(第十七表)

イ 固定財生産補充部門ヲ吸収シ盡ス場合ハ貯蓄十減価償却分ニ対シ新
追加軍需生産額十追加予備ガ対等ス

ロ 更ニ生活財補充部門ヲ吸収シ盡ス場合ハ新貯蓄十減価償却十生計費ガ
新追加軍需生産額十追加予備ト対等ス。コノ場合ハ生計費ハ期初予
備ヲ喰フコト、ナルベシ

ハ 更ニ流動財補充部門ヲ吸収シ盡ス場合ハ
新貯蓄十生計費十運取總資本ト追加軍需生産額十追加予備ガ対等ス
コノ場合流動財ハ期初予備ヲ喰フコト、ナルベシ

ニ 更ニ基本計重配置ヲモ吸収シ行ケバ 固定財 流動財 生活財ノ全
般的欠乏ヲ示シ得ベシ

ホ 以上ノコトガ追加信用ヲ通ジ行ハル、場合ハ複合的ニ価格騰貴ヲ累
積シユクベシ

軍需補充が他部門補充ヲ吸収スル場合

a = 蒙材料 b = 減価銷却

計画 S = 軍需追加生産額 + 追加予備額

(第一表参照)

第十七表

	K ₂	期予 初備	K _c		W	P	O	C	S	追加 予備	期予 末備
			a	b							
計画補充組成	g'	3.9	1.85	0.1	0.49	0.49	2.93	0.49	0.49	4.1 ⁰	10.29
	K ₂	9.1	4.15	0.4	1.12	1.12	6.79	1.2	1.12	2	35
	計	3.9	3.9	1.76	1.9	4.9	4.9	29.3	4.9	4.9	1.29
変革第一期	g'	3.9+9.1=13	27.3	2.6	10.41	10.41	50.92	10.41	10.41		10.29
	K ₂	3.9	17.6	1.9	4.9	4.9	29.3	4.9	4.9	2	39
	計	3.9	3.7	0.2	3.9	3.9	11.7	3.9	3.9	5.7	23.9

	g'	K ₂	計	g'	K ₂	計	g'	K ₂	計	g'	K ₂	計
変革第二期	17.6	1.9	0.49	0.49	20.48	0.49	0.49	0.49	0.49	12.54		
変革第三期	27.3	2.6	10.41	10.41	50.92	10.41	10.41	10.41	10.41	23.9-6		
計	55.9	27.3	2.6	10.41	10.41	50.92	10.41	10.41	10.41	10.29		
計	10.29	12.54	23.9-6	10.29	12.54	23.9-6	10.29	12.54	23.9-6	10.29		
計	12.54	17.9	10.29	12.54	17.9	10.29	12.54	17.9	10.29	12.54		
計	17.9	10.29	12.54	17.9	10.29	12.54	17.9	10.29	12.54	17.9		

変革第一期 $S + a =$ 軍需追加生産額 + 追加予備

変革第二期 $S + a + C =$ 軍需追加生産額 + 追加予備

消費 - 貯蔵 $ヲ$ 喰込 $ニ$ 12.5-6

変革第三期 $S + a + C + a =$ 軍需追加生産額

4 軍需財生産部門内ニテ資材が争奪セラル、場合

(発註ニ元ニヨリ軍需割当資材が部門内ニテ争奪セラレタル場合、
如シ)

1, 2, 3 = 於テ考究セルハ、イズレモ追加投資ニヨリ、g 部門が他部
内ヲ吸収シ攪乱スル場合ナレトモ、更ニ部門内ニテ発註ニ元又ハ発
註ニ元ニヨル競争ノタメg 内部ニテ争奪行ハル、トセバ、全体ノ技
術組成ハ変化セザレドモ、生産財所金ノ価格騰貴ハ交互羅上ゲ行ハ
レ、又ニ考究セル如キ状態ノ複合ヲ呈スベシ

x x x

又上追加支出、追加投資ノ諸場合ヲ考究セル一応ノ結果次ノ如シ、

1. 新事態ニ応ズル生産計画ノ変更ト資本ノ計画的配分替(根本的態度
ナルベシ)

2. 資本支出ノ統制——信用統制通貨統制ニヨル——ニヨリ生産財所金
ノ法定額取引ノ防止、即チ金融計画ニヨル実行力ノ強化。

3. 超過利潤(諸部門価格ノアンバランスヨリ生ズ)並ニ設備費用資金
支出ノ完全吸収

4. 貯蓄率ハ生活財価格ノ適正維持ノ立場ヨリ為スコト

5. 貯蓄計画ニ於テハ貯蓄額ノ達成ヨリハ貯蓄率ノ増進ニ目標ヲ置クコ
ト



